富山大学芸術文化学部・大学院芸術文化学研究科 卒業・修了制作展 GEIBUN11, GEIBUN12（2019, 2020）

The 11th, 12th Graduation Works Exhibition

●西島治樹／富山大学学術研究部芸術文化学系
NISHIJIMA Haruki / School of Art and Design, University of Toyama

●Key Words: Graduation Works, Exhibition, Selection, Arts & Design

1. 開催概要

富山大学芸術文化学部は、2005年の学部創設以来、2020年度で15年目を迎え、卒業・修了研究制作展は12回目を迎えた。本学部では、芸術と社会を結びつけて考える『芸術文化』という概念を核に研究・教育を進めており、その略称である「芸文（GEIBUN）」の愛称で親しまれている。総合大学の中の芸術系学部という全国的にも珍しい環境は、芸術文化を社会に展開する上で必要な幅広い教養や、多角的な視点による思考を身に付ける機会を提供している。本展では、多様で自由な発想をもつ作品群約120点を展示し、これまでに培われた研究成果の集大成を発表した。

■展覧会場・会期

（2019年度）高岡市美術館　第１、第２、第３展示室および地階市民ギャラリー、会期：2020年2月8日（土）～2月24日（月）（15日間）

（2020年度）第１会場：高岡市美術館　第１、第２、第３展示室、第２会場：富山大学高岡キャンパス、会期：2021年2月27日（土）～3月7日（日）（9日間）

■主催

富山大学芸術文化学部卒業・修了制作展実行委員会（富山大学芸術文化学部、公益財団法人高岡市民文化振興財団・高岡市美術館）

■共催・後援・協賛

共催：高岡市、高岡市教育委員会
後援：富山県、富山県教育委員会、高岡商工会議所
協賛：高岡短期大学・富山大学芸術文化学部　同窓会「創己会」

2. 関連イベント

■2019 年度の開催内容

○プレ・イベント１
資料展「表現の不自由から考えるアートのこれから」
日時：2020 年 1 月 28 日（火）－ 2 月 24 日（月）
会場：富山大学高岡キャンパスエントランスホール

○プレ・イベント２
特別上映会　大浦信行《遠近を抱えて　PartⅡ》
日時：2020 年 1 月 31 日（金）
会場：富山大学高岡キャンパス講義室
※「あいちトリエンナーレ 2019」の企画展の一つである「表現の不自由展・その後」に出展された大浦伸行氏の映像作品《遠近を抱えて PartⅡ》を上映

○プレ・イベント３
講演会「表現の不自由から考えるアートのこれから」
講師：鷲田めるろ（キュレーター）

図１　高岡市美術館 第１ギャラリー展示風景

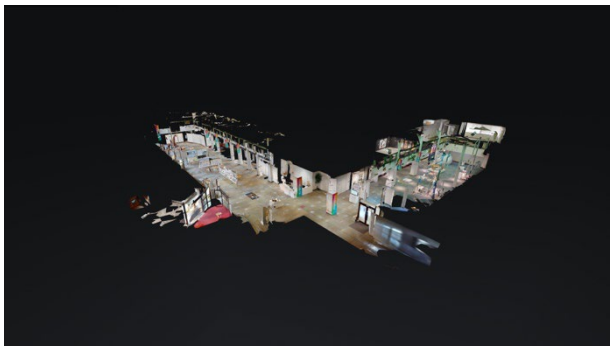

図２　3D ウォークスルー展示 WEB ページ(2020 年度)

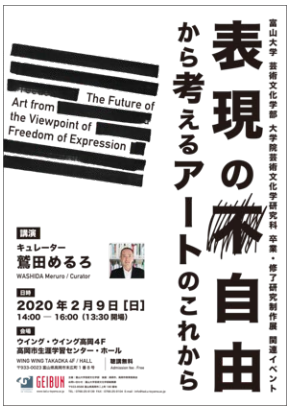

図３　プレ・イベント１　資料展示風景

図４　プレ・イベント３「表現の不自由から考えるアートのこれから」講演会チラシ

日時：2020 年 2 月 9 日（日）14:00-16:00(13:30 開場)
会場：ウィングウィング高岡 4F 高岡市生涯学習センター・ホール
○オープニング・セレモニー
日時：2020 年 2 月 7 日（金）
会場：高岡市美術館　地階ビトークホール　＊オープニング・セレモニー後内覧会
○公開プレゼンテーション
日時：2020 年 2 月 11 日（火）- 20 日（木）
会場：高岡市美術館　企画展示室　地階ビトークホール　※大学院芸術文化学研究科 2 年生特別研究、デザイン情報系、デザイン工芸系　建築デザイン系による最終発表会
○院生展
日時：2020 年 2 月 15 日（土）-24 日（月・振）
会場：芸文ギャラリー　※大学院芸術文化学研究科 1 年生による成果展示

■2020 年度の開催内容

○オンライン展示同時開催
※GEIBUN12 特設サイトで展示作品・論文を公開
　卒業・修了研究制作展 GEIBUN12：http://www.tad.u-toyama.ac.jp/special/geibun12/index.html
○3D ウォークスルー展示
※本展第 2 会場（富山大学高岡キャンパス）の様子を３D 鑑賞するサイトを新設
○ケーブルテレビによる番組配信
※高岡ケーブルネットワークの番組配信サイトにて、学生の研究活動を紹介する番組を配信

3.　GEIBUN Selection の実施

GEIBUN Selection は、本展に出品された作品を対象に、本学部の全教員参加の審査によって優秀な作品・論文を選出する仕組みで、「GEIBUN9」と「GEIBUN10」において実施された GEIBUN Prize の仕組みを再検討し、前年度「GEIBUN11」より継続している取組みである。コースの垣根を超えて審査を行う選考方法を採用することで、芸術文化学部の教育成果として、融合的かつ新しい研究を評価することを目指している。また、選出数等を数値化していく仕組みや、全教員参加型の審査方式を採用することで、審査の公平性を担保している。

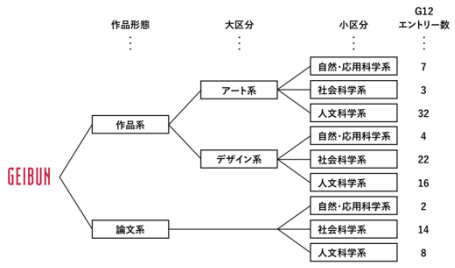

図 5　GEIBUN Selection 選考区分、エントリー数

選出作品は 1 年間本学部で借り受け、学部主催の企画展（TAD ギャラリー・富山県美術館）や学部広報サイトなどで紹介している。

4.　卒展運営の新たな試み

2019年度における卒展運営の新たな試みは、多くの学生が運営作業に携わるこれまでのキュレーター委員会のあり方を見直し、教員を中心とした運営体制に試行した。これにより学生は、研究活動に関わる学習時間を十分確保し、集中して制作に取り組む環境が整備された。また、2017年度から始まった「GEIBUN Prize」「GEIBUN Selection」の開催内容について検証し、新たなルール作成を行なった。プレ・イベントでは、同年開催された国際展覧会「あいちトリエンナーレ」で話題となったテーマ「表現の不自由」に注目し、社会の矛盾や表現の意味について考えを深め、学生だけでなく社会に向けた問いかけを発信した。

2020年度は、作品の展示構成を「人文科学系」「社会科学系」「自然・応用科学系」の3つのセクションに区分し、芸術分野の既存のカテゴリーではなく、より広範な学術領域を包括するカテゴリーで分類することで、総合大学ならではの多角的で融合的な研究の成果を可視化することを目指した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、高岡市美術館と富山大学高岡キャンパスの2会場に分けての開催となり、今までにない展示方法を模索した。会場にお越しいただけない方に向けて、本展の全出品作品の詳細情報を公開する試みとして3Dウォークスルーサイトを設置した。セキュリティ上の観点から高岡市美術館での3D展示公開は実現できなかったが、第2会場の高岡キャンパス3D展示と実展示来場者を含む総来場者数は、コロナ禍であるにもかかわらず平時と同等の集客数を記録した。

5.　運営組織（2020 年度）

○富山大学芸術文化学部卒業・修了制作展実行委員会
顧　問：斎藤滋（富山大学長）高橋正樹（高岡市長）、参与：塩谷雄一（高岡商工会議所会頭）、委員長：長柄毅一（富山大学芸術文化学部長）、副委員長：鶴谷俊幸（高岡市市長政策部長）、西島治樹（富山大学芸術文化学部教授）、委　員：内藤裕孝（富山大学芸術文化学部講師）、高野武美（公益財団法人高岡市民文化振興事業団専務理事・事務局長）、寺井知恵（高岡市市長政策部文化創造課長）、大野洋靖（高岡市教育委員会生涯学習・文化財課長）、村上隆（高岡市美術館長）、監　事：島田勝弘（富山大学芸術文化学部総務課長）、関野正弘（高岡市美術館副館長・管理課長）